公益社団法人 日本建築家協会
東海支部三重地域会

2014 JIA三重森羅万象匠塾

日時：2014 年 9 月 12 日（金） 午後 3 時 30 分～ 5 時まで
場所：三重県総合文化センター 男女共同参画センター（フレンテみえ）棟 2 階セミナー室A

■テーマ　”木版画 江戸から現代 その変遷を通して見えてくる日本の創る力”

浮世絵は江戸時代の絵画のジャンルのひとつで、 錦絵とも言い風俗画として広く庶民に親しまれ大衆文化としてその地位が確立されました。 浮世絵は主に多重色刷り木版画で、 絵師、 彫り師摺師のそれぞれの職人が分業制で自分の技を駆使し、 一枚の浮世絵として完成させます。

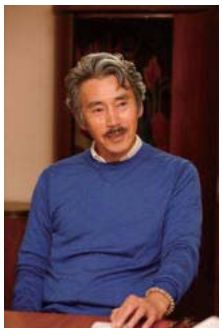
江戸時代に活躍した写楽 北斎 広重らはいずれも下絵を描く浮世絵師とし後世に名を残しましたが、 次の工程である彫と摺りは無名の職人達の手で仕上げられていました。 立原位貫氏は浮世絵の復刻を数多く手がけてきましたが、 特筆すべきは、 この 3 つの製作工程をすべてひとりでこなす版画師だということです。

富山県で江戸末期を代表する歌川国芳らの版木が大量に発見され、 立原氏はこの版木を使い当時の色や表現で国芳を今によみがえらせましたが、 これは版画師として浮世絵の材料である和紙や絵の具、 版木などできるだけ当時と同じものにこだわり、 追い求めてきたからであり、 この復刻ができたのは彼の浮世絵への執着心とそれを支える匠の業ではなかったのでしょうか。

今回立原位貫氏を森羅万象匠塾にお招きしますが、 浮世絵を通してその奥にある時代背景や、日本人のものづくりに対する考え方など私達建築家にとっても設計の中に生かせるヒントや、 さまざまな問題点が浮かび上がってくるのではないかと期待しています。

講師：版画家 立原位貫（たちはら いぬき）

1951年名古屋生まれ。
ジャズのサックス奏者として活動中、 25歳のとき一枚の浮世絵に深く感銘を受けて転身。
以来、 江戸時代と同じ手法、 絵の具、 紙を独学で研究、 再現し、
それらを使って真の意味での浮世絵の復刻を成し遂げた唯一の画家である。



当初は浮世絵の復刻が主であったが、 その後、 自身のオリジナル作品も多数手がけている。

2008 年にNHKの依頼により歌川国芳の浮世絵「伊達男気性競 金神長五郎」を当時の制作過程や、 彫りと刷りの技術で復刻し、 その復刻過程が「幻の色 よみがえる浮世絵」としてNHKBSで放映される。

最近の作品として、 約十年がかりの大作 夢枕獏氏の連載小説「大江戸恐竜伝」の挿絵全 48 作が完成。

今回の森羅万象匠塾は一般参加も受付しますので参加希望の方は下記の所に連絡してください。

連絡先：JIA三重 研修委員会 谷川精一 （株）アスカ総合設計
TEL0598-58-3260 FAX0598-58-3264 E-mail: asca1@ma.mctv.ne.jp